

屋久島生態系モニタリング

屋久島東部(愛子岳)の植生垂直分布調査 (平成 23 年度/2011 年度)

●標高 1200 ㍉プロット

[優占種の変化]

階層区分	2001 年	2006 年	2011 年
高木層(6.0m 以上)	—	スギ	スギ
亜高木層(3.0 ~ 6.0m)	—	ヒメヒサカキ	ヒメヒサカキ
低木層(1.2 ~ 3.0m)	—	ヒメカカラ	ヒメカカラ
草本層(1.2m 未満)	—	コシダ	コシダ

●屋久島東部 バイオマス量の変化

2001~06年にかけての標高1000㍉プロットのバイオマス量が急激に少なくなった原因は、胸高直径の大きい高木が台風による暴風などの影響で風倒被害にあったから。気象庁のデータでは、04年8月29日に台風16号が上陸、最大瞬間風速50.6m/sを記録。また05年9月6日に台風14号が上陸、同観測地点で最大瞬間風速58.1m/sを記録。06年以降はこうした強風の記録がなく、バイオマス量が回復していることから、標高1000㍉付近は風害に遭いやすい標高と思われる。

標高400、600㍉プロットのバイオマス量が減少傾向にある原因は、高木よりも亜高木や低木の本数が減少しているため、風害の影響は考えにくい。これらの標高域においては、胸高直径50㍉を超える大径木が少なく、未だ成長過程の照葉樹二次林であり、高木層の成長に伴い林内照度が減少したことによる被圧の影響が考えられる。因果関係についてはさらに研究を進める必要がある。

●屋久島東部 草本層指標種の変化

[暖帯性と冷温帯性] 標高1000㍉のヒメシヤラのみ消滅したが、標高800㍉の草本層にヒメシヤラがあり、温暖化の影響は考えにくい。標高1000㍉では亜高木以上のヒメシヤラがないため、種子散布が行われていない可能性あり。01年にあった草本層のヒメシヤラは、被圧枯死や風害で消滅し、更新が途絶えたと考えられる。

新たな出現種は、暖帯性のキジノオシダと、より冷温な環境を好むコウヤクケンノブ。後者は標高600~1000㍉の高標高域だけに出現していたことから、標高600㍉以上では顕著な温度上昇は起きていないと思われる。また、キジノオシダは標高200~800㍉に出現しており、分布が拡大していると考えられるので、今後も観察する必要あり。

[ヤクシカの嗜好種と不嗜好種] 標高200㍉で嗜好種のウラジロガシ、標高600㍉で嗜好種のタシロリミノギが消滅、これはヤクシカによる食害の影響であると考えられる。一方で不嗜好種で消滅したサザンカやシマイズセンリョウは元々個体数が少なく、期間内で更新が行われずに消滅したと考えられる。標高200㍉で消滅したハイノキは高標高域で優占している。新たに出現した嗜好種は0種、不嗜好種4種が出現、原因は食害の影響を受けなかったことにより分布が拡大したと考えられる。



雪化粧の縄文杉

洋上アルプス「屋久島」は九州本土最南端の佐多岬から南方65キロの海上に位置します。

東西28キロ、南北24キロ、周囲132キロのほぼ円形の島は全島ほとんどが花崗岩で成り立っています。この

洋上アルプス「屋久島」 冬山の表情を紹介！

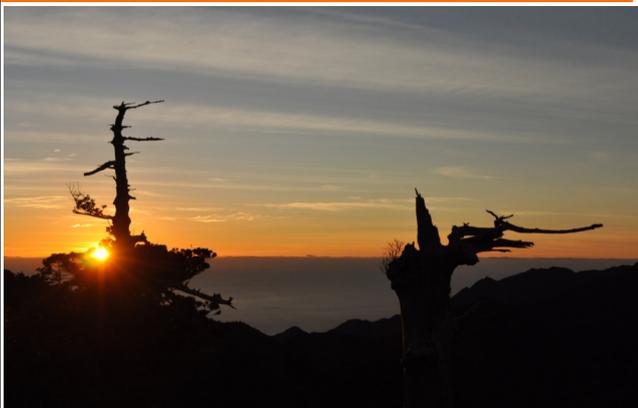
小さな島に九州最高峰の宮之浦岳(1,936㍉)をはじめ多くの山々が鎮座しています。屋久島の総面積は54,100㍉、その90%(48,475㍉)が森林です。そのうち80%(38,392㍉)が国有林です。平成5年に世界自然遺産に登録され、ヤクスギランドや白谷雲水峡の自然休養林には、毎年約17万人が訪れています。南国とはいえず、洋上アルプス「屋久島」は亜熱帯から冷温帯までの自然環境のなかにあり、奥山では2㍉を超える積雪もあります。厳しい南国の冬山の表情を紹介します。

屋久島の植物



ガジュマル
(クワ科)

屋久島・種子島を北限にインド・オーストラリアの熱帯地方まで分布する常緑高木。枝を横に伸ばし、そこから気根を垂らす。地面に届いた気根は幹になる。葉は厚く、常に青々としている。アコウの葉は一斉に落ちることもある。花期は通年。



太鼓岩ご来光



小花之江河 (高層湿原)



樹水



太鼓岩より奥岳を望む (中央は宮之浦岳)

平成27年度「国有林モニター」の募集について

林野庁九州森林管理局では、より多くの国民の皆様身近な存在として国有林を感じていただけるよう、森林・林業や国有林に興味を持たれる一般の方々を対象に、国有林の役割や現状等の情報をお知らせし、またご意見をいただく「国有林モニター」を実施しています。

この度、平成27年度「国有林モニター」を下記の通り募集いたします。皆様からのご応募をお待ちしています。

記

【募集人数】 40～60名程度

【依頼期間】 平成27年4月～平成28年3月（1年間）

【依頼内容】

- ・ 森林・林業、国有林に関するアンケートへの回答（匿名にて公表することがあります）
 - ・ 森林・林業、国有林に関する意見や提言などの報告、弊局広報紙への投稿
 - ・ 国有林モニター会議への出席（年1～2回、希望者のうち一定数）
- ※弊局の広報誌など、国有林に関する資料を定期的にお送りします。

【応募資格】

九州・沖縄8県にお住まいの20歳以上（平成27年4月1日現在）の方で、森林・林業および国有林に関心を有する方。

※国会及び地方議会の議員、地方公共団体の長及び国家公務員は除きます。

※既に国有林について多くをご存じの方（例：国有林OB、業界関係者、森林林業担当の自治体職員、国有林に陳情等の活動をされた方等）は、お断りさせていただく場合があります。

【応募方法】

下記必要事項をご記入の上、ハガキ、封書、メール又はファックスのいずれかの方法で、以下の宛先まで応募ください。ご不明な点につきましては、遠慮なくお問い合わせ下さい。

〒860-0081 熊本市西区京町本丁2番7号
九州森林管理局 企画調整課 国有林モニター担当
TEL：096-328-3511 FAX：096-328-3643
E-mail：ky_kikaku@rinya.maff.go.jp

【必要事項】

- ・ 氏名（ふりがな）、性別、生年月日、年齢、職業、住所、郵便番号、電話番号、メールアドレス（ございましたら）
 - ・ 国有林モニターを知ったきっかけ（具体的に記入）
 - ・ 国有林モニターに応募された理由（100字程度）
- ※ご応募いただいた個人情報、個人情報の保護に関する法律に従い、適正に取り扱います。なお、一度送付いただいた申込書はお返ししませんので、あらかじめご了承願います。

【募集期限】

平成27年2月27日（金）（当日消印有効）

【発表】

- ・ 選考結果は、平成27年3月下旬頃、依頼状の発送をもってお知らせいたします。
 - ・ 依頼状と共に、確認事項と同意書をお送りしますので、署名の上ご返送下さい。
- ※選考結果に対する個別のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承下さい。

問い合わせ先
九州森林管理局 企画調整課
国有林モニター担当：田中、尾野
TEL：096-328-3511
FAX：096-328-3643